

## 全学内部質保証委員会検証における意見への対応

部局等：医学部・医学系研究科・附属病院

<b>評価結果における意見等</b> <small>(※問題点や改善を要する事項、改善が望まれる事項等)</small>	<b>対応状況</b>
<p>教育面で取られている成績評価の可視化と厳格化といった取り組みと同時に学生の精神面でのケアも考慮すべきである。</p>	<p>学生の精神面のケアについては、学生委員会・アドバイザー制度を基盤として教員・学務・学生支援担当が連携して学生の支援に当たっている。特に、留年生・メンタルヘルスのハイリスク群・障害のある学生等の修学面での困難を抱えやすい学生についてはアドバイザー面談や健康診断呼び出しの中で、早期に発見・相談に繋げる体制を構築している。相談先の保健センター・学生総合相談室ともに令和2年度のコロナ禍に一度件数は落ち込んだが（計400件程度）、令和3・4年については再び増加傾向（計600件程度）にある。また令和5年度より障害学生支援システムを構築し、24時間体制での相談機関への予約が可能となり、学生が「相談しやすくなった」との声が聞かれるようになった。</p>
<p>大学院教育において、標準修業年限内修了率や学位授与数が必ずしも十分でないことが課題であり、博士論文の質を維持しつつこれら指標を向上させるよう工夫いただきたい。</p>	<p>第3期中期目標期間（4年目終了時）に係る現況分析の「書面調査シート」において指摘された「標準修業年限×1.5」年内修了率が低い（70%未満）ことについて、医学系 研究科博士課程小委員会・博士課程委員会において検討を行い、3年次の中間発表（大学院生発表会）の時期を早めること、及び中間発表時に博士論文作成の進捗度や今後の作業等の必要事項を確認し、その上で博士課程委員（教授）が討論することにより、「標準修業年限×1.5」年内に修了できるように指導する体制を強化した。</p>
<p>これまでに構築した研究交流のネットワークを活用して、第4期の目標である正規留学生の確保（特に博士後期課程）に結び付けていただきたい。</p>	<p>ゲノム科学・微生物学分野との交流がある、協定校のアイルランガ大学（インドネシア）から、博士課程への進学を希望する学生からの問合せがあり、現在は国費外国人留学生の大使館推薦枠に申請中で、採択となれば、2024年度より耳鼻科にて1名受入予定。</p> <p>その他、皮膚科学との交流がある、ハノイ医科大学からは2024年度4月より博士課程に進学予定の学生1名を受入予定。</p>
<p>さらに目標達成に向けて教職員のモチベーションが高まり、成果が出ている一方で、教職員への負荷の増加や優秀な人材の確保が課題でありこの点についてご考慮いただきたい。</p>	<p>教職員への負荷軽減や優秀な人材の確保のため、様々な方策を検討している。また、各種公募事業へ積極的に応募し、方策実現に向け取り組んでいる。主な取り組みは下記の通り</p> <p>◎医学部等教育・働き方改革支援事業（文科省） （令和5年2月採択決定）</p> <p>・勤務環境の改善として、リモート診療システムの導入による負担軽減、医師の時間外就労が可能な環</p>

	<p>境を構築し、医師不足の解消と子育て医師の仕事と育児の両立支援を図る。本年7月より運用予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間管理の効率化として、勤怠管理システムのビーコン受信機を増設し、残業・研鑽時間の申請入力の補助機能の充実を図り、時間外労働の削減を図る。本年7月より運用予定。</li> <li>・労働時間管理の適正化として、勤務時間可視化システムを導入し、変形労働制における勤務時間の適正管理を行うとともに、時間外労働の削減を図る。本年7月より運用予定。</li> </ul> <p>◎令和5年度大学教育再生戦略推進費（文科省）</p> <p>審査の結果、不採択となったが質の高い臨床教育・研究の確保のために、新規システムの導入を検討している。また、データマネージャーを雇用し、人的にも研究サポートを行うことを検討している。</p> <p>◎子育て世代の医療職支援事業（厚労省） （令和5年5月末提出）</p> <p>大学内での子育ての支援策、優先駐車場の設置やマタニティウェアの配布等物的支援の検討、インターネットを使っての自己研鑽の継続が可能な環境整備についての取り組み、復職プログラムの構築、保育サポートの充実等を検討。</p> <p>（研究面）</p> <p>学長裁量経費の支援によるダイバーシティ化の促進を目的として、血管統御学分野に生命科学テニュアトラック教員1名を確保した。</p> <p>教職員の負荷を減らすため、全学的に進められている会議の効率化と削減に向けた取り組みに沿って委員会の削減を行っている。また、教職員の特性と業務内容およびその量について議論しながら、これらを考慮した業務配分を行っている。また、研究者支援ポータル(anchor)を新たに整備し、学内外の研究助成公募情報の効率的な取得と申請を可能にした。</p>
<p>提出された自己点検評価書では、評価項目ごとに〈今後の課題〉が適切に抽出されている。課題の中には今後の具体的な取組が提示されているものもあり、今後の部局の活動の更なる質向上に資するものであり、部局内で共有いただき、其々の取組を進めていただきたい。</p>	<p>今後の課題に対する取り組み状況は、学部長、各担当部署及び担当委員会を中心に実現可能な事案より取り組みを進めている。</p> <p>（研究面）</p> <p>抽出された課題の一つである「分子イメージング研究と先端的画像医学研究」及び「がん、発達障害や認知症・神経科学、アレルギー・免疫疾患の研究」の更なる推進のため、第4期中期目標・中期計画にこれらに係る英文論文業績数を掲げ、令和4年度実績数を集計し、部局内に周知した。また、研究支援組織であるライフサイエンス支援センターの設備更新等も行い、支援力強化に努めている。今後、部局内連携や研究センター、他学部等との連携強化も取り組む。</p>